

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和2年4月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果(令和元年10月～令和2年3月)	1
食品中のアフラトキシン検査結果(令和元年度)	3
食品アレルギー検査結果(令和2年1月～2月)	4
遺伝子組換え食品検査結果(令和元年度)	6

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 3月	8
----------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	12
---------------------	----

医動物・種類同定検査結果(令和元年10月～令和2年3月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和元年10月から令和2年3月の6ヶ月間の種類同定検査報告件数は、7件で内訳は、昆虫類2件(コウチュウ目2件)、その他の節足動物3件(ダニ目1件、クモ目2件)、その他2件(ミミズ綱、不明)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
住宅1階の床下点検口付近に虫が複数個体みられる。 (12月) 2階台所上部の屋根裏収納に置いてあった段ボール下に虫体を発見した。 (1月)		コクヌストモドキ (コウチュウ目)	穀粉害虫として最も普遍的な種で、小麦粉などの穀物をはじめ、ビスケットなどの菓子類、パン類など、多くの食品を食害する。明るい場所でよく飛ぶ。近年、新築家屋内に本種が多数飛来する事例がみられるが、その原因は不明である。
玄関外のモルタル柱、和室の部屋前濡れ縁、屋外の洗濯物等に小さい虫が、毎日、数匹ずつ出現する。 (2月)		オオワラジカイガラムシ (カメムシ目)	カシ類、シイ、マテバシイなどの樹木に寄生する。本種幼虫は、冬期(主に12月上～下旬頃)にふ化する。ふ化した幼虫は、寄生植物を求めて移動し、屋内への侵入、洗濯物に付着することがある。
クモ及び卵囊を採取した。 (10月:2件)		セアカゴケグモ (クモ目)	体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。攻撃性はないが、直接手で触れると咬まれることがあるので注意が必要である。咬まれると激しい痛みを感じた後に腫れ、まれに全身症状(痛み、発汗、発熱など)が現れることがある。重症化することは少ない。
			卵囊
	雌成虫、黒色、背面及び腹面に赤い斑紋あり、10mm		

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
マンションの一室の巾木の角に小さな虫が大量にいる。 〈9月〉	 乳白色、0.3~0.5mm	ケナガコナダニ (ダニ目)	あらゆる食品類を食害する。またカビも摂食するため、畳などから発生することもある。
	 乳白色、0.4mm	カザリダニ科の一種 (ダニ目)	堆肥、干し草、納屋、落ち葉などから見出される。自由生活性であるが、昆虫に付着することもある。また屋内塵からも発見され、カビを摂食することがある。
水洗便所の水貯留部の底に虫が沈んでいた。 〈1月〉	 褐色、0.8mm	ミミズ綱の一種 (ミミズ綱)	体は一般的に細長く、多数の規則正しい環状の体節からなり、前体部に肥厚した部分(環帯)がある。体表に短い剛毛がみられる。淡水・陸・海水に住む。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

食品中のアフラトキシン検査結果(令和元年度)

当所では、食品中のアフラトキシン検査を行っています。今回は、令和元年6月、9月及び令和2年2月に食品専門監視班が収去した市内流通食品の検査結果を報告します。

6月に4検体(アーモンド、カシューナッツ、クルミ及びマカデミアナッツ)、9月に4検体(アーモンド、カシューナッツ、黒イチジク及びピスタチオ)の計8検体について総アフラトキシン(アフラトキシンB1、B2、G1、G2)の検査を行いました。検査の結果、表1に示すとおり全て不検出でした。

また、2月に牛乳及び特別牛乳(国の許可を受けた施設で生乳を搾取後、無殺菌又は低温殺菌で製造し、厚生労働省令で定める成分規格を有する牛乳)の2検体についてアフラトキシンM1の検査を行いました。検査の結果、表2に示すとおり全て不検出でした。

表1 総アフラトキシンの検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 μg/kg	規制値 μg/kg
アーモンド	2	0	不検出	} 10
カシューナッツ	2	0	不検出	
クルミ	1	0	不検出	
黒イチジク	1	0	不検出	
ピスタチオ	1	0	不検出	
マカデミアナッツ	1	0	不検出	
計	8	0	—	—

(検出限界:1 μg/kg)

表2 アフラトキシンM1の検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 μg/kg	規制値 μg/kg
牛乳	1	0	不検出	} 0.5
特別牛乳	1	0	不検出	
計	2	0	—	—

(検出限界:0.05 μg/kg)

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

食品アレルギー検査結果(令和2年1月～2月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーを持つ人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品の検査を行い、食品の安全を確認しています。

令和2年1月及び2月に、各区福祉保健センターが市内の小学校及び保育園から収去した特定原材料除去給食78検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

卵除去給食33検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (親子丼の具、かきたま汁等)	30	0
菓子類 (パウンドケーキ、ロールケーキ等)	3	0

2 乳の検査

乳除去給食29検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (ポタージュ、ホワイトシチュー等)	24	0
菓子類 (クッキー、マドレーヌ等)	5	0

3 小麦の検査

小麦除去給食16検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

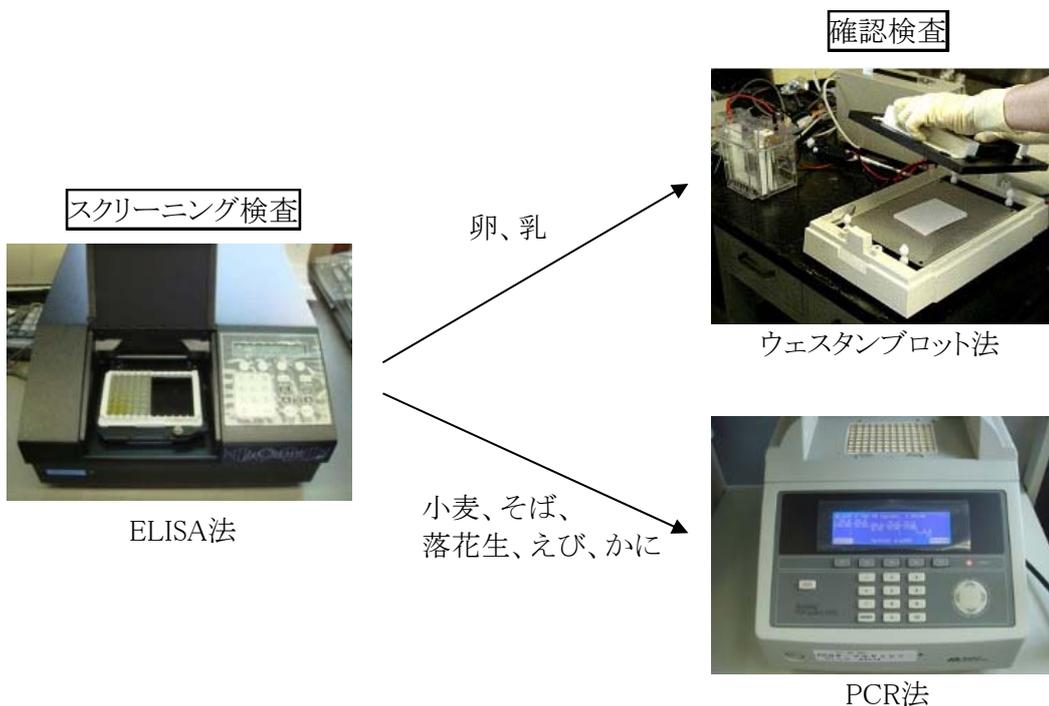
検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (ポークカレー、ホワイトシチュー等)	16	0

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査ではすべて陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

遺伝子組換え食品の検査結果(令和元年度)

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては主に定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成31年4月と令和2年3月に、健康福祉局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体について検査を実施しました。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品12検体について、国内未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能 ^{*2}
コーンスナック菓子	日本(5)、ギリシャ(1)	8	0	0
	台湾(1)、ベルギー(1)			
とうもろこし粉	日本	2	0	0
とうもろこし茶等	韓国、オーストラリア	2	0	0
計		12	0	0

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

^{*2} 「検知不能」とは、元々食品が持っている、本来なら遺伝子組換え食品であるかどうかにかかわらず検査で検出されるはずの遺伝子(内在性遺伝子)も不検出となり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に食品中の遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*3}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能
麺類(ビーフン、フォー等)	タイ(2)、台湾(2)、	6	0	0
	日本(1)、ベトナム(1)			
米粉、餅	日本	4	0	0
計		10	0	0

*3 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えダイズの定量検査

ダイズ穀粒8検体について、国内承認済の遺伝子組換えダイズ3品種(RRS、LLS、RRS2)*4の定量検査を行いました。これらの検体は、非遺伝子組換えダイズで、分別生産流通管理*5が行われていました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下*6であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えダイズ(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
ダイズ穀粒	カナダ(4)、日本(2)、 アメリカ(1)、中国(1)	8	0
計		8	0

*4 いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだダイズの品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

*5 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。なお、分別生産流通管理が行われた非遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換えでない」等の表示をすることができます(任意表示)。

*6 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、ダイズでは5%以下の意図せざる混入が認められています。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 3月

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- インフルエンザの報告数が定点あたり1.00を下回りました。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	百日咳	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	風しん	1件

- 1 **パラチフス**:カンボディアでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 2 **E型肝炎**:経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型の報告が1件、ポンティアック熱型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が4件ありました。うち2件は異性間性的接触、1件はベトナムでの経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- 5 **ウイルス性肝炎**: B型の報告が2件ありました。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代のA群の報告が1件ありました。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が1件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:50歳代および60歳代の報告が1件ずつ(いずれもワクチン接種なし)ありました。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:60歳代および70歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。
- 11 **梅毒**:5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は4件が国内、1件が不明で、感染経路は性的接触が4件(異性間が2件、同性間が1件、詳細不明が1件)、不明が1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
- 12 **破傷風**:90歳代の報告が1件ありました。
- 13 **百日咳**:10歳未満が3件(いずれもワクチン接種あり)、10歳代が2件(いずれもワクチン接種あり)の報告がありました。
- 14 **風しん**:タイでの感染と推定される40歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

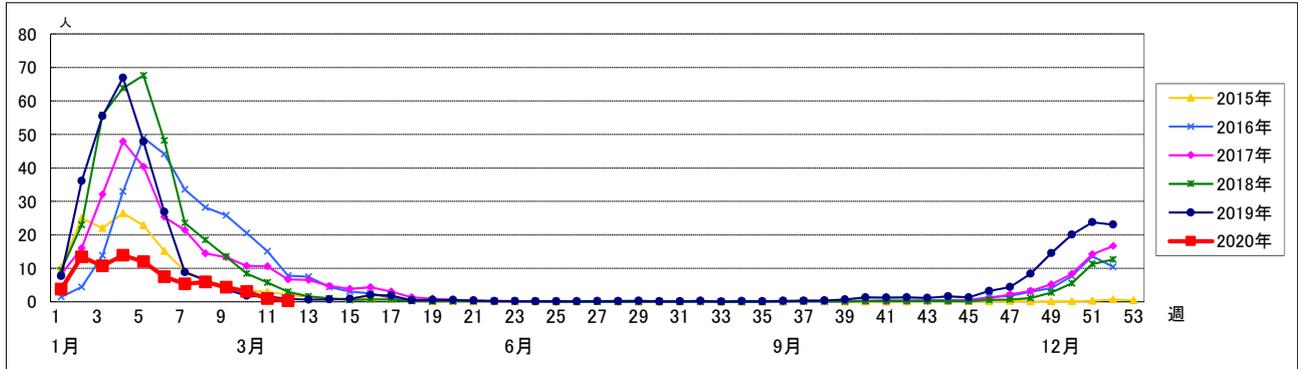
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

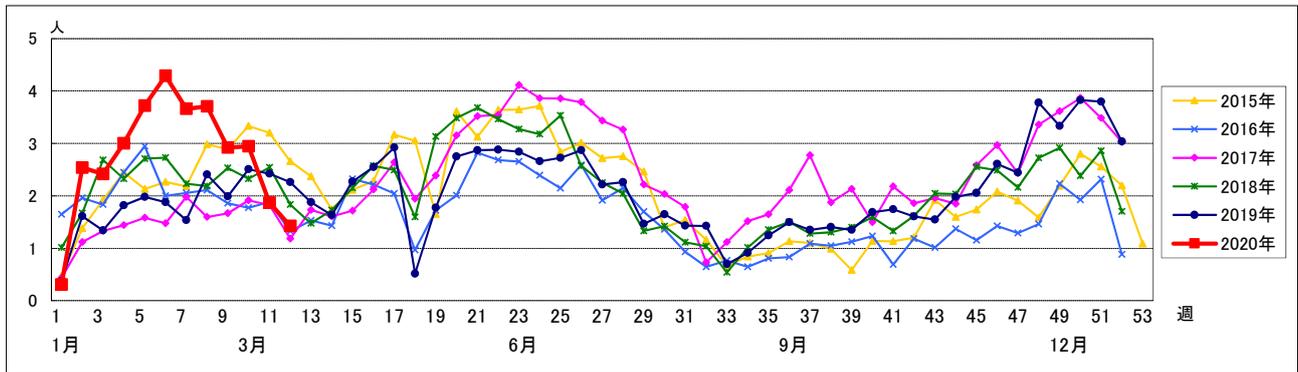
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 9週	2月24日～ 3月 1日
第10週	3月 2日～ 3月 8日
第11週	3月 9日～ 3月15日
第12週	3月16日～ 3月22日

1 インフルエンザ:今シーズンの市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第51週にて23.78と今シーズンのピークとなり、第6週で7.52となり、流行注意報解除基準を下回り、第11週で0.90となり、流行の目安となる1.00を下回りました。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:冬季に入って報告数が増加し、第6週で4.29となっていました。第11週で1.87、第12週で1.42となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:16件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:15件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.67	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月期(第9週～第12週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点38件、内科定点16件、基幹定点3件、定点外医療機関からは2件でした。

4月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離株20例と遺伝子2例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果3月期(第9週～第12週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上	下	イン	感	咽
	気	気	フル	染	頭
	道	道	エン	性	結
	炎	炎	ザ	胃	膜
			*	腸	熱
				炎	
インフルエンザ AH1pdm型			3		
インフルエンザ B型(Victoria)	1		13		
アデノ 1型	1				
アデノ 3型					1
ヘルペス 1型	1				
ライノ		1			
ノロ G2型				1	
合計	3	1	16	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月期(2020年9週～2020年12週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、腸管凝集性大腸菌1件、大腸菌1件、グラム陽性菌1件。非定点からは検体依頼がありませんでした。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の依頼はありませんでした。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(第9週～第12週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関 基幹定点	侵襲性肺炎球菌	3	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23型(1)、3型(1)、UT(1)、
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	腸管凝集性大腸菌	1	EaggEC O15 : HUT(1)
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O8(1)
	グラム陽性菌	1	<i>Lactobacillus plantarum</i> (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
	劇症型溶血レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 UT(1)
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT(1)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T6(1)、TB3264(3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和2年3月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和2年3月の総アクセス数は、378,894件でした。前月に比べ約28%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*183.9%、保健情報8.0%、検査情報月報2.4%、食品衛生1.2%、薬事1.1%、生活環境衛生0.7%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

3月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「コロナウイルス感染症について」、3位は、「大麻(マリファナ)について」でした。4位には、「ペストについて」が入っています。

表1 令和2年3月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	110,257
2	コロナウイルス感染症について	80,778
3	大麻(マリファナ)について	9,530
4	ペストについて	7,286
5	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	7,054
6	感染症発生状況	5,159
7	横浜市感染症発生動向調査	4,941
8	衛生研究所トップページ	4,574
9	トキソプラズマ症について	3,772
10	イタリアのこどもの定期予防接種について	3,532

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「コロナウイルス感染症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/corona1.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年3月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和2年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
新型コロナウイルスについて	1
マスクについて	1

2 追加・更新記事

令和2年3月に追加・更新した主な記事は、17件でした(表3)。

表3 令和2年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月11日	アメリカ合衆国の大人の定期予防接種(2019年)	更新
	アメリカ合衆国の大人の定期予防接種について	更新
	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種(2019年)	更新
	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	更新
3月13日	感染症に気をつけよう(3月号)	掲載
3月16日	E型肝炎について	更新
	A型肝炎について	更新
	クロアチア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
3月17日	人口動態統計資料 平成30年	掲載
	ドイツのこどもの定期予防接種について	更新
3月18日	オーストラリアのこどもの定期予防接種について	更新
	横浜市内における麻しん患者届出情報(2019年)	掲載
3月19日	ニュージーランドのこどもの定期予防接種について	更新
3月23日	スロベニア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
3月25日	デンマークのこどもの定期予防接種について	更新
3月30日	インドのこどもの定期予防接種について	更新
3月31日	スペインのこどもの定期予防接種について	更新

【 感染症・疫学情報課 】